

沖縄と恍惚の人

昨年秋、国民の絶大な期待を背負って総理大臣に就任した鳩山由紀夫氏は、「沖縄基地問題」と「政治とカネ問題」でわずか8ヶ月で総理の椅子を投げ出しました。民主党の目玉政策の一つである毎月13千円の子供手当の支給が今月から開始されましたが、鳩山由紀夫・邦夫兄弟の貰っていた子供手当(?)は月額1500万円、桁外れな額に加えて、認識もなかったとか…。

又、普天間基地移設問題では、「最低でも県外」「私には腹案があるんです」と繰り返し発言し、沖縄県民の期待を目一杯膨らませておいて、結局は元の木阿弥状態。沖縄県民が怒るのも無理はないと思います。「負担の分担を」という鳩山前総理の協力要請に、全国知事会の反応は、いたって冷淡。「沖縄の苦難は理解するが、危険・迷惑施設は自分のところは勘弁してほしい」というのが、各知事の主張で、これはNIMBY(ノット・イン・マイ・バックヤード)症候群と言うそうです。

米軍基地だけが危険・迷惑施設ではありません。以前、老人施設の建設プロジェクトに携わった時、迷惑施設だとして周辺住民から反対されたことがありました。反対の理由は、救急車や霊柩車が頻繁に出入することで住環境が悪くなり、地価が下がるということでした。その一方で施設への入居を望んでいる待機高齢者が42万人余り、解決は容易ではありません。

沖縄が日本に返還されたのは、1972年(昭和47年)の5月15日です。当時はまだ、高度経済成長が続いており、日本は元気が満ち溢れていました。この年のベストセラーは、有吉佐和子さんが書かれた「恍惚の人」でした。この小説が発表される2年前の1970年(昭和45年)日本は65歳以上の人口が7%を超えた高齢社会に突入しました。丁度この頃 日本中に高速道路や新幹線が次々と建設され国内の移動時間が急速にスピードアップされるのと呼応するように、日本社会の高齢化も徐々にそのスピードを加速していったのです。

有吉佐和子さんは、当時まだ認知症を病気とは考えず、「耄碌」とか「呆け」としか捉えられていない時代に、この小説を書くため「老年学」を6年あまりも勉強されたそうです。記憶力の低下を機に、自身の老化現象が起こりかけてきたと自覚し、老年学に興味を持たれたそうです。

又、有吉さんは、家庭の崩壊も問題視されていました。悲惨な事件として記憶に残っている連合赤軍事件、このメンバーの中に祖母が寝たきりになったことで、家族の負担が増大、家庭崩壊を引き起こし、過激な行動に向かわせたのではと指摘しています。

当時は、まだ介護保険が始まる前。漸く「老人問題」に世間の目が向けられ始めた頃でした。

「恍惚の人」が発表されたのは、有吉佐和子さん41歳の時。その後、53歳で急逝されました。1973年映画化されましたが、主演の痴呆老人を演じた森繁久彌氏も今年亡くなりました。

少子高齢問題、基地問題、医療問題、…。難しい問題が山積。先送りせず、議論を尽くし方向性を見出す姿勢が必要なのでは？

1972年(昭和47年)年賦

- 1月 グアムで横井庄一さん発見
- 2月 札幌冬季オリンピック
連合赤軍浅間山荘事件
- 5月 セブンイレブン1号店開店
沖縄返還
- 6月 ウォーターゲート事件発覚
- 8月 ミュンヘンオリンピック
- 9月 パレスチナゲリラ五輪村襲撃
日中国交正常化
- 10月 上野動物園、パンダ公開